会議要録

会議の名称	令和5年度 第3回和光市文化財保護委員会
日時	令和6年3月18日(月) 14:00~15:30
場所	和光市役所 6階 602会議室
出席者 ※敬称略	【文化財保護委員】委員10名が出席 田中明、並木實、田中茂、森 朋久、鈴木敏弘、大平秀和、岩田昌之、保科裕、 白井和広、網代雅代 【事務局】 [教育委員会] 石川教育長、寄口教育部長 [生涯学習課] 山本課長補佐兼文化財保護担当統括主査、 文化財保護担当 鈴木主任、相田主事
傍聴者	0名

1 開会

2 教育長あいさつ

教育長の石川でございます。

本日はご多用の中にもかかわらず、和光市文化財保護委員会にお集まりいただき誠にありがとうございます。

昨年10月、和光市教育委員会は、主催事業として「国史跡指定記念 午王山遺跡展」を開催いたしました。期間中は多くの方にご来場いただき、和光市の午王山遺跡を周知する機会となったと思っております。今後も教育委員会といたしましては、午王山遺跡をはじめとした文化財を保護し、活用していきたいと考えております。

こうした貴重な文化財を後世に残すため、和光市文化財保護委員会の皆様にはこれまでも多くのご審議をいただきまいました。おかげさまで、本年度は答申をいただいた3基の富士塚を令和5年9月21日付けで和光市の指定文化財に指定することができました。

本日は、諮問中の2点の指定文化財候補資料について、ご審議をいただきたいと思いますと考えております。委員の皆様におかれましては、どうぞ忌憚なくご意見をいただきますようお願いいたします。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○事務局より説明・報告

- 1 市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。
- 2 配布資料について説明。

3 議題（協議・報告）

（1）越後山遺跡出土ヒスイ大珠の文化財指定について

○委員長

「議題（1）越後山遺跡出土ヒスイ大珠の文化財指定」について、事務局より説明願いたい。

○事務局

このヒスイ大珠は、越後山遺跡第2次調査で第11号土坑から出土したものである。ヒスイ製品として市内最大級の資料であり、風化による劣化が少なく、輝きがあることから優品であるとされている。また、第11土坑は縄文時代中期の墓壙と考えられ、このヒスイ大珠はその副葬品と考えられることから市内においても重要な資料であるとして、和光市文化財保護条例第6条第4項に基づき、令和4年度第1回和光市文化財保護委員会において、諮問をした。この際、答申案の作成は考古学がご専門である鈴木副委員長と事務局でたたき台をまとめることとなっていた。

この度、市指定文化財にするため答申案がまとまったため、会議資料として事前に送付した。1枚目が答申案で、2枚目がその理由が書かれた資料となる。ご審議いただきたい。

なお、実物資料は令和4年3月9日に実施した視察の際に、白子コミュニティーセンターで文化財保護委員の皆様に見せているが、その後委員の改選等もあったため、本日はヒスイ大珠に加え、この後の議題にある種子圧痕土器をご用意している。

○委員長

答申案を事務局と作成いただいた、鈴木副委員長からこの資料について、一言お願いしたい。

○鈴木副委員長

この資料は早くから注目されており、『埼玉考古』等に写真が掲載されるなど、資料として紹介されている。埼玉県内では他にもヒスイ大珠は出土はしているが、越後山遺跡出土の資料は非常に大きくて目立つ資料である。考古学的には遺跡・遺構・遺物全てにおいてよく整っている資料と言える。また、考古学の観点からだけでなく、理科学分析も行われている点も含め、資料的には全く問題がない資料であり、市指定文化財として保存すべきものであると考える。

○委員長

ただいま説明のあった越後山遺跡出土ヒスイ大珠の答申案について、ご意見などあるか。

○保科委員

縄文時代中期で、これだけの大きいヒスイが出てくることは珍しいものか。

○鈴木副委員長

ヒスイの出土自体は少なくはない。ヒスイが産出される場所は決まっているが、その場所から離れた場所で出土する事例も確認されている。そうした点からいけば、縄文時代の交易などを知る上でも資料価値が高いと考える。

○保科委員

もう少し後の時代になると権威を持っている人が希少な遺物を所有するように思うが、縄文時代中期の状況はどうか。

○鈴木副委員長

次の議題の種子圧痕土器にも関連するが、以前は縄文時代といえば狩猟などのみで生活しているイメージがあった。しかし、最近では縄文時代にも農耕もあったという考えが出てきているなど、研究が進みつつあるので、一概に言うことが難しい。

○並木委員

大珠はどのように読むべきか。

○鈴木副委員長

「たいじゅ」と読む研究者もいるので違いはあるかと思う。

○委員長

それでは、他に意見等がなければ、この答申（案）を文化財保護委員会としての答申としたいがいかがか。

⇒【一同】異議なし。

それではこの案をもって、文化財保護委員会の答申とする。

(2)越後山遺跡出土種子圧痕土器の文化財指定について

○委員長

議題②「越後山遺跡出土種子圧痕土器の文化財指定について」について、事務局と答申案を作成いただいた、鈴木副委員長から一言説明をお願いしたい。

○鈴木副委員長

この土器は、肉眼で穴が空いていると確認された箇所にシリコンを詰めて型をとるという方法により分析した結果、土器の胎土にマメが混入していることが明らかとなった資料である。以前、土曜考古学研究会という研究会に出席した際、金子直行氏と中山誠二氏がこの土器を使って、縄文時代中期にマメ類を栽培していた可能性について発表していた。

それをきっかけにこの資料の重要性について認識したところである。

これと同様の資料がないかと調べてみたら、勝坂遺跡から出土していることが分かり、確認したところその資料は文化財指定を受けているものであったので、和光市でも指定にすることを検討すべきと思っていた。そこで、越後山遺跡出土の土器に種子圧痕が確認できることに最初に気が付いた金子氏に意見を求めることが良いと思ったため、事務局から金子氏に依頼していただき、和光市埋蔵文化財調査報告書第71集で出土資料の評価を寄稿いただいた。

これらの資料を踏まえた結果、越後山遺跡出土種子圧痕土器は重要な資料であり、市指定文化財として保存すべきものであると考える。

○委員長

事務局から、種子圧痕土器について補足説明はあるか。

○事務局

この種子圧痕土器は、越後山遺跡第2次調査で第7号住居跡から出土したものである。

この土器は当初、報告書『越後山遺跡（第2次・第6次調査）』において、縄文時代中期の土器として報告したものである。その後、鈴木副委員長からもお話があったとおり、ダイズ属の種子が混入していた痕跡が種子圧痕として残る資料であることが金子直行氏、中山誠二氏・佐野隆氏の3氏によって明らかにされた。そのため、鈴木副委員長から、この報告者の一人である金子氏にも見解をいただいてはどうかというご意見をいただいた。

そこで、生涯学習課としては、先の報告書では当該資料について種子圧痕が残る資料であることを明らかにしていなかったことから、種子圧痕の内容を含めた報告書を作成することにした。その内容は、本日配布した和光市埋蔵文化財調査報告書第71集において、付篇として掲載している。この報告では、朝霞市博物館のご協力により撮影いただいた展開写真とともに、当該資料についてダイズ属の種子圧痕を初めて明らかにした金子直行氏による評価を「ダイズ属の種子を混入した越後山遺跡出土の縄文中期土器」として寄稿いただき掲載している。

これらの内容も含めて答申案がまとめられているので、ご審議いただきたい。

○委員長

ありがとうございます。報告書を見ると、「なぜ種子が混入したのか」ということについて記述されている。その点などについても委員各位からご質問があれば伺いたい。

○保科委員

とても貴重な資料であると思うが、その当時の土器を作った人の精神構造はどのように考えるべきか。

○鈴木副委員長

精神構造を考えるとというのはとても難しい。研究者は土器の文様や形式の共通性を捉えて形式名等を付与する。土器は作った人、使っていた人、廃棄した人がいたはずだが、その土器には様々な特徴がある。そこに意味があるのかもしれないが、それをどのように理解するべきかということを考えるのは難しいことである。

○保科委員

マメは意図的に練り込んだのか、後から付けたのか。

○事務局（鈴木）

後から付けたものではなく、土器の製作過程に練り込んだと思われる。意図的であったかどうかは判断が難しい。

○鈴木副委員長

マメの数が多いことから考えると、意図的に練りこんだものと理解してよいのではないかと考える。その意図を考えるのは難しいが、他と比較して類例が少ないということを見ると、今後は祭祀的な意味合いも含めて、その方面を専門的に研究している研究者から様々に見解が示されるだろう。

○委員長

種子圧痕については答申案にまとまっている。マメには豊作を願うというような意味も込められていたのではないかと考えられる。

○保科委員

土の中にマメを練り込むという特別な意味があったとも考えられる。様々なことが考えられる貴重な資料だと思う。

○委員長

その他に意見等がなければ、これまでの議論を踏まえて、この答申（案）を文化財保護委員会としての答申としたいがいかがか。

⇒【一同】異議なし。

それではこの案をもって、文化財保護委員会の答申とする。

～委員長から教育長に答申を提出～

○委員長

それでは、答申した2件の文化財指定について、今後の流れを事務局からご説明いただ

きたい。

○事務局

今後の流れとしては、皆様にご了承いただいた答申を定例教育委員会において審議していただき、教育委員会の議決を得られた後は告示をし、市指定文化財に指定される予定である。

(3) 令和5年度文化財保護事業中間報告

○委員長

「議題(3) 令和5年度文化財事業中間報告」について、事務局より説明願いたい。

○事務局

令和5年度文化財事業中間報告について資料に基づいて説明。(資料3参照)

○委員長

事務局の報告について、質問やご意見などはあるか。

⇒質問・意見等なし

(4) その他

○委員長

「議題(4) その他」の令和6年度の主な予定事業について、事務局より説明願いたい。

○事務局

令和6年度の主な予定事業について資料に基づいて説明。(資料4参照)

○委員長

事務局の報告について、質問やご意見などあるか。

⇒質問・意見等なし。

○委員長

「その他」について、委員の皆様や事務局から何かあるか。

○並木委員

昨年、富士塚が指定されたが説明看板はいつ頃設置する予定か。また、経年劣化しづらい仕様になっているか。他の説明看板も文字が読みづらくなっているの、ラミネート加工した紙で代用するなどの対応を願う。

また、午王山遺跡のガイダンス施設についてはどのような構想を持っているか。話せる

範囲で伺いたい。

○事務局

説明看板の設置は令和6年度を予定しており、経年劣化しづらい素材とする予定であるが今後地主とも相談しながら進めていく。なお、文字が読みづらくなっている看板については随時調査をして対応していく。

また、午王山遺跡のガイダンス施設については、今後設置に向けて調整をしているところである。その具体的な内容については、今後策定を予定している整備基本計画によって具体化していく予定である。

○並木委員

ガイダンス施設は午王山遺跡に絞った施設になるのか。

○事務局

ガイダンス施設とした場合は、午王山遺跡について展示することを目的とするものである。そこに午王山遺跡以外の資料等を展示する機能を付加するかどうかについては、国庫補助を要望することも含めて考え方を整理した上で検討していく必要がある。その点についても今後の整備基本計画の策定過程の中で検討していく。

○鈴木副委員長

水子貝塚公園のように博物館展示施設に近いような施設にするのか、現地で遺構などを活かして作るのか。いずれにせよ、そのような構想は専門家の意見も含めて作った方がいいと思う。また、午王山のどこに作るかという場所の課題もある。

○事務局

整備基本計画を策定する際には、策定委員会を設置していきたいと考えている。策定委員会にはその内容に関連した専門家にも入っていただく予定である。

○鈴木副委員長

専門家は当然必要であるが、行政としての視点も必要と考える。ぜひ良いものとなるように取り組んでいただきたい。

○委員長

ぜひ意味のある施設を作っていただきたいと思う。他に意見はあるか。

○岩田委員

富士塚について。板橋で富士塚について展示会が開催されていた。その際、ジオラマが

展示されていたので、白子熊野神社富士塚もジオラマを作成していただきたい。

○事務局

検討いたします。

○委員長

事務局から他に連絡はあるか。

○事務局

埼玉県文化財保護協会主催の文化財講習会について、令和6年度も開催が検討されている。参加募集の案内が生涯学習課に届き次第周知するので、参加を希望される場合は案内に沿ってお申込みいただきたい。

○委員長

ありがとうございました。他に協議がないようでしたら、これで協議課題として挙げられた事項の審議は終了といたします。皆様貴重なご意見をありがとうございました。

4 閉会